

2022年2月24日

一般社団法人 日本臨床薬理学会 植田真一郎 理事長 様
第43回日本臨床薬理学会学術総会 松本 直樹 総会長 様
第44回日本臨床薬理学会学術総会 藤尾 慈 総会長 様
第45回日本臨床薬理学会学術総会 志賀 剛 総会長 様

特定非営利活動法人 日本タバコフリー学会 代表理事・医師 藺 潤
〒561-0802 大阪府豊中市曽根東町1-11-44 ビコロ曽根3F

貴学会がタバコ産業および関連会社の後援・共催等を拒否し、
タバコに対して毅然たる態度をとってくださることを要望します

突然の要望書で失礼します。日本タバコフリー学会（当学会）は、タバコフリー（タバコのない）社会を目指して活動している特定非営利活動法人で、会員には医師・薬剤師・看護師など医療職も多く含まれています。

さて貴学会の第42回学術総会（2021年12月11日、仙台国際センター）のランチョンセミナー（LS）10は、「加熱式たばこのリスク低減可能性を探る」というテーマで、日本たばこ産業株式会社（JT）が共催していました。

演者は、第42回学術総会のプログラム委員長である熊谷雄治氏とJTたばこ事業本部フェローの岡田健太郎氏でした。貴学会のホームページ（HP）ではLS10の趣旨が発表と無関係な内容になっていますが、以下のJTサイエンスのHPで確認することができました。

<https://www.jt-science.com/sites/default/files/2022-02/2021-09.pdf>

<https://www.jt-science.com/sites/default/files/2022-02/2021-08.pdf>

また、医師向けの雑誌 *precio*（2022年 KANSAI MARCH VOL92号）にも、紹介記事が掲載されており、同封しますのでご一読ください。

以上を踏まえ、以下の要望をさせていただきます。

- ① 毎年日本だけで10数万人の死亡原因となっているタバコを生産し続けているタバコ産業の一つで世界第3位のJTと共催で、タバコに関するセミナーを開催することは、「薬物治療を通じて皆様の健康に貢献しています」とHPに掲げておられる貴学会の方針に反しております。また貴学会研究倫理委員会の規則第1条「臨床薬理学研究に関する倫理の発展を促す」目的からも倫理的問題があると考えます。「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約（FCTC）」第13条2は「あらゆるたばこの広告、販売促進及び後援の包括的な禁止を行う。」、同条4(a)は「虚偽の、誤認させる若しくは詐欺的な手段又はたばこ製品の特性、健康への影響、危険若しくは排出物について誤った

印象を生ずるおそれのある手段を用いることによってたばこ製品の販売を促進するあらゆる形態のたばこの広告、販売促進及び後援を禁止すること」と規定しています。

今回の JT との共催は、FCTC の規定に抵触すると思われます。今後 JT などタバコ産業や関連企業の後援・共催等を一切おやめください。

- ② 加熱式タバコを「ハームリダクション」の美名のもとに宣伝していますが、加熱式タバコによる健康被害が、既に日本だけで 5 件報告されており、中には ECMO を必要とした重症例も見られています。(追記に文献を添付)また、今回の講演でも触れているようですが、加熱式タバコにおいても有害物質は皆無ではありません。この程度の濃度の有害物質であっても長期に吸入した場合の影響についてはまだ明らかになっておりませんし、明らかになった時点で禁止しても犠牲者は救われません。さらに、有害物質の最たるものであるニコチン(毒物)についてはほぼ同等の濃度が含まれていることが明らかになっています。

FCTC 第 11 条では「(特定のたばこ製品が他のたばこ製品より有害性が低いとの誤った印象を直接的又は間接的に生ずる用語、形容的表示、商標、表象による表示その他の表示を含む。)を用いることによってたばこ製品の販売を促進しないこと。これらの手段には、例えば、「ロー・タール」、「ライト」、「ウルトラ・ライト」又は「マイルド」の用語を含めることができる。」と規定し、「ハームリダクション」が低タール・ニコチンの製品を開発・宣伝・販売してきたタバコ産業の常套宣伝文言であることが明言されています。

タバコ産業によるニコチンビジネスの永続を目的とした加熱式タバコを含むすべての新型タバコは、顧客のニコチン依存症を継続させ、「ハームリダクション」とはならないことを、貴学会としても確認し、全会員に周知してくださることを要望いたします。

- ③ 日本循環器学会や日本呼吸器学会は、2013 年の新禁煙宣言で、全会員が非喫煙者であることを目指すと宣言し、多くの学会も禁煙宣言を出しています。日本医学会の分科会紹介によれば、貴学会の会員数は約 2500 名(うち医師約 700 名)であり、全ての領域の医学・薬学分野の研究をカバーされていると拝察します。その貴学会が、いまだに禁煙宣言を出しておられないことは大変残念であり、早急に社会的責任を果たしていただきたいと考えます。貴学会も可及的早期に、禁煙宣言を発出していただくことを切望します。
- ④ 御多忙中恐縮ですが、以上の要望に対するご回答を文書で本年 4 月末までに当学会あてにいただきたく、宜しく願い申し上げます。

敬具

【追記】 加熱式タバコによる健康被害の報告（日本）

1) Takahiro Kamada et al.: Respirol Case Rep. 2016 Nov;4(6):e00190

Acute eosinophilic pneumonia following heat-not-burn cigarette smoking

2016年（神戸市立医療センター西市民病院）急性好酸球性肺炎（中等症）
20歳男性 紙巻タバコ 20本/日×6カ月の喫煙歴あり、2週間前から加熱式タバコ（IQOS）40本/日に切り替え、発熱と息切れで入院。胸部XPにて両肺の浸潤影があり、CTにて両肺浸潤影・肺泡隔壁肥厚・胸水貯留などが認められた。気管支洗浄（BAL）で細胞の60%に好酸球が認められ急性好酸球性肺炎（AEP）と診断された。ステロイド（プレドニゾン）が2週間投与され、投与4日後にXP像は著明に改善、投与終了後も再発は認められなかった。

2) Toshiyuki Aokage et al.: Respir Med Case Rep. 2019; 26; 87-90

Heat-not-burn cigarettes induce fulminant acute eosinophilic pneumonia requiring extracorporeal membrane oxygenation

2019年（岡山大学医学部附属病院）急性好酸球性肺炎（劇症）

16歳男性 幼少時に甲殻類アレルギーと気管支喘息の既往。2週間前の加熱式タバコ（商品名記載なし）使用直後から咳・息切れをきたし、症状が増悪するため他院から大学救急部に緊急入院。血圧;109/50mmHg 心拍数;136/分、SpO₂;81%、白血球;28,000/ μ L、CRP;32.3mg/dLで、胸部XPおよびCTにて両肺に広範なすりガラス状陰影を認め、重症急性呼吸窮迫症候群（ARDS）と診断された。500mg mPSL（メチルプレドニゾン）が投与や、人工呼吸管理でも改善が見られず、膜型人工肺（ECMO）による呼吸管理とmPSL 1000mg/日投与が3日間行われた。喀痰細胞検査で好酸球が14.7%を占めていたことから、急性好酸球性肺炎（劇症）と診断された。PSL60mg×7日間 ECMO治療4日間で病状改善、他院へ移送され、その後10日で退院。

3) Tomoko Tajiri et al : Intern Med 2020 Nov 15;59(22):2911-2914

Acute Eosinophilic Pneumonia Induced by Switching from Conventional Cigarette Smoking to Heated Tobacco Product Smoking

加熱式タバコへの変更による急性好酸球性肺炎

2020年 名古屋市立大学医学部附属病院

47歳女性、気管支喘息あり、27年間の喫煙歴、加熱式タバコに変更直後から咳あり、2カ月後に胸部異常陰影指摘、4カ月後に大学病院に紹

介された。急性好酸球性肺炎と診断され、プレドニゾン 25 mg経口投与で改善した。

4) 村上昇太ら 日呼吸誌 2021 10(2) 197-201

紙巻きタバコから加熱式タバコに変更後に肺障害を呈した 1 症例

2021 年 自衛隊中央病院

42 歳男性、20 本/日×22 年間の喫煙歴、2 カ月前から加熱式タバコ (IQOS メンソール) に変更。呼吸困難 (酸素 3L/分カヌラで SPO₂ は 90%)、両肺にすりガラス様陰影。抗生剤パズフロキサシン (PZFX) で改善傾向。急性好酸球性肺炎が疑われたが、確定診断には至らず、加熱式タバコによる肺障害として報告された。

5) 佐藤恵理ら 日本内科学会雑誌 2022 111(1) 111

加熱式タバコ (プルーム・テック) に関連する間質性肺疾患

2022 年 立川相互病院

55 歳男性、20 本/日×40 年の喫煙歴。1 年前に加熱式タバコ (プルーム・テック) に切り替えた。健診で両肺の異常陰影を指摘され、CT では斑状のすりガラス陰影を認め、肺生検では非特異的な胞隔炎と器質化変化があり、加熱式タバコによる肺障害と診断された。薬物治療なしで加熱式タバコ吸入中止 4 か月後には、陰影のほぼ正常化が見られた。